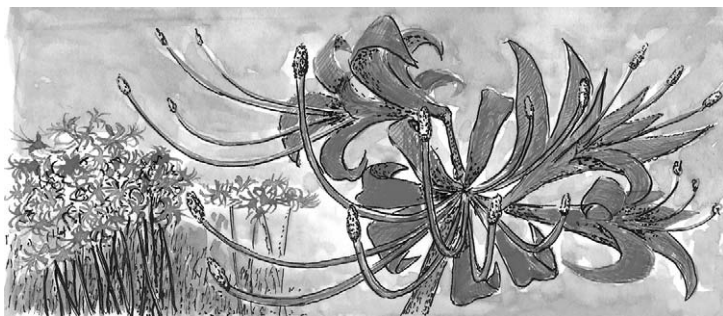




主張

子供たちの居場所づくり

星 田 正 治

三年前、校長として二〇年ぶりに現任校に戻ってきました。当時の先輩方からは、中学校の学級経営、生徒指導、進路指導等たくさんのことを学び、中学校教員としての自信をつけることができた七年間でした。

三年前の四月は、「子供たちは昔と比べてどうだろうか」と、期待と不安を抱きながら一か月過ごしていました。結果、以前と変わらず、素朴で純粋な子供たちばかりでした。いや、昔よりも礼儀正しいし、挨拶もよくでき、自分の考えもしっかりと言いうことができていて、感心するくらいでしたし、生徒と先生との関係もとてもいい印象でした。

しかし、二か月、三か月と過ごしていくうちに、大きな課題も見えてきました。それは、学校規模の割に、不登校の子供が多いこと。そして、様々な理由で、以前より自分の殻にこもる子供が多く見られ、中には、悲観的な言葉を言う子供もいるなど、校長としても大変心配する状況でした。そこで、そのような子供たちを救うためには、安心して過ごせる居場所づくり、地域との連携、多世代との交流等が必要ではないかと思い、七年間勤務していたことの利点を生かし、知り合いの地域人材を積極的に学校に取り込むことにしました。教室になかなか入れない子供には、別室（ステップルームと名付けた）で地域の退職



された先生にボランティアで勉強を教えてもらったり、地域の方と共同の畑を作って、実のなる野菜と一緒に育てる環境を作ったりしました。現在も、木曜日を地域の日として位置付け、地域の方との交流活動を行っています。子供たちも楽しみにしており、地域の方にも子供たちをととても可愛がっていただいているので、子供たちは毎週笑顔で活動ができています。また、同じ時期に、校長室前の廊下に、大きな水槽を設置し、数十匹の金魚を飼うことにしました。若手の理科の先生と話をし、居場所がなく校舎内をうろうろしていた子供とその仲間を金魚のお世話係として役割を与え、水槽の管理をお願いしました。「君たちがいるから金魚が育っているね。ありがとう。」という言葉をいつも投げかけたり、全校集会でも子供たちみんなの前でその頑張りを褒めたりしました。

このような取組を始めて、三年が経過しました。地域が協力的で温かい校区なので、今でも学校のために何でも協力していただいています。昨年度からは、子供たちが地域のボランティア活動にも積極的に参加するようになりました。また、今では、金魚が子供たちの心の癒しとなり、金魚係も二代目に受け継がれています。今年の四月からは、昼休みに、ギターが好きな子供たちの伴奏で、歌を歌いながら、雑談の時間を設けています。年ごとに優しい雰囲気为学校全体に漂うようになったと感じるのは、私だけではないと思います。

子供たちは、自分が必要とされる存在と自覚できれば、前向きに頑張っていくようになります。これからも困っている子供たちのために、周りのたくさんの方の力を借りて、チームで居場所づくりを続けていきたいと思っています。

(全日中副会長・熊本市立江南中学校長)